

# 目次

## I

最近における欧米の古典和歌研究……………2

——特にカーター氏の近業二書について——

## II

ブラジルにおける日本文学の受容（一）……………20

——主として概論・通史について——

ブラジルにおける日本文学の受容（二）……………35

ブラジルにおける日本文学の環境……………68

日本文学の範囲……………87

## III

ブラジル国立図書館蔵「清水冠者物語」について……………112

——付、その他の和古書等について——

ブラジルの「羽衣」……………121

IV	その後の E A J S .....	146
V	二一世紀の日本文学研究への提言 .....	154
VI	西オーストラリア諸大学の日本文学関係蔵書 .....	287
VII	文学部会 (第2回 E A J S フイレンツェ大会報告) .....	269
	幽玄の変遷 .....	264
	A Trend in the Pronunciation of Contemporary Japanese: Increasing Use of <i>Rendaku</i> .....	256
	Studies of Medieval Japanese Literature: Recent Trends and Major Achievements .....	237
	Chairman's Comment on "Mappō Thought in Japanese Literature" .....	204
	(Seminar II, International Conference of Eastern Studies, 1996) .....	201
	Lecture Summary: Musashino as Depicted in Art and Literature .....	201
	(International Conference of Eastern Studies, 1988) .....	(88)

	Presentation Summary: Wandering and Itinerancy in Modern and Contemporary Popular Songs: With a Focus on "Katasha's Song" and "Song of Wandering" .....	198
	(Symposium V, International Conference of Eastern Studies, 2005) .....	(91)
	Wandering and Itinerancy in Modern and Contemporary Popular Songs .....	196
	自然なる国際人 ツベタナ・クリステワ .....	289
	あとがき 福田恵美子 .....	295
	国文学研究資料館 (国文研) の福田文庫について .....	303
	福田秀一 (フクダヒデイチ) (一九三二年十一月十九日生) 略歴 .....	305
	〈巻末資料〉ブラジルの公演「HAGOROMO」解説チラシ .....	

## 最近における欧米の古典和歌研究

——特にカーター氏の近業二書について——

## 一

このところ、海外の日本文学研究はいよいよ盛んで、古典和歌の分野にも顕著な業績が相次いでいる。仮に一九八五（昭和六〇）年以降の刊行で、半ば偶然に筆者が入手したり書誌・書評類で存在を知ったりしたものを単行本（シリーズものを含む）に限って挙げて見ても以下のような多数に上る（特に断らないものは英訳または英文）。紙幅の都合で原題や出版社（多くは大学出版会）・頁数・定価等は省略するが、それを補う意味で目に入った書評・紹介の所載誌・号数等を付記しておく。なお表題には長いものも多いので、若干の省略や意識を加えたものがある。

- 1、M・コワイヨの仏訳『短歌・俳句・連歌、魔法の三角——言葉の建築』（一九九六、やや一般向）
- 2、E・克蘭ストンの『和歌選集 巻一』（副題「玉かざる杯 The Gem-Glistening Cup」、全四巻の第一巻、一九九三、MN五〇一—九五春にE・マイナー、JAS五四一—九五・五にS・ストロングの評）
- 3、S・カーターの『日本古典詩歌選集』（一九九一、紙背装九三、MN四八一—M・モリスの評。後文参照）
- 4、G・エバーソールの『古代日本の儀礼歌と死の政治学』（一九八九、MN四五—四〇九〇冬にG・バーンス、JAS五二—九二二にA・ハインリッヒの評。著者の名はアイバーソールと訓むのかも知れない）
- 5、R・シフェールの仏訳注『万葉集 巻一—三』（全六冊の第一、一九九七）
- 6、C・ペロンニの仏文『万葉植物辞典』（一九九三、挿図は牧野図鑑から採る）
- 7、R・ラウドの『日本古典文学における詩歌の役割』（一九九四、MN五一—四〇九六冬にR・バンデイの評）
- 8、H・マツカラの王朝和歌研究『夜の錦』（一九八五、HJAS四七—二八七・二二に次書と併せて故R・ブラワーの評）
- 9、同訳『古今集、付「土佐日記」「新撰和歌』（同前）
- 10、A・ドーリンの露訳『古今集』（三冊、一九九五）
- 11、セツコ・イトーの『歌合選集』（シリーズ『中国論文集』五七、一九九一、歌合の概説と「亭子院歌合」から文化二二年の「六十四番歌結」まで二二歌合の英訳）
- 12、ティール夫妻他『小野小町——歌・物語・能』（一九九三、MN四九—二〇九四夏にV・ウォータースの評）
- 13、J・ハーシュフィールド他訳『真闇の月——小野小町と和泉式部の恋歌』（一九九〇、JAS四七—三〇八八・八に克蘭ストンの評）
- 14、シフェールの仏訳注『紫式部集』（一九八六）
- 15、F・エライユの仏訳『御堂関白集』（一九九三、MN四九—二〇九四夏にE・カトーの評）
- 16、E・カーメンズの『大斎院選子と「発心和歌集」の研究』（一九九〇、MN四六—三〇九一秋にS・アルンツェン、HJAS五二—二〇九二・二二にR・モレルの評）
- 17、I・スミッツの『孤独の追究——一〇五〇—一五〇〇頃の日本の自然詠詩歌』（内容は平安後期隠逸詩歌自然詠の研究、一九九五、MN五一—四〇九六冬にR・ボーゲンの評）